

## 2016年度 「中国 大連・東北部通信」

2016年10月25日

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 永元 博文 ◆副所長 内藤 崇徳

◆副所長 呂 俐

永元 E-mail: suozhang@kitakyusyuu-dl.com

### 『第1回中日韓友好都市卓球交流会』が開催されました

スポーツを通じた友好交流と相互理解の促進を図るため、2016年9月23日(金)から24日(土)までの2日間、同大会が大連市において開催され、中日韓から北九州市を含む計9都市が参加して熱戦を繰り広げました。

「第1回中日韓友好都市卓球交流会」は今大会が初めて開催されたもので、大連市人民対外友好協会が主催し、大連市卓球協会の運営のもと大連市西岗区体育館で開催されました。参加資格は40歳以上の男女で、参加都市は中国側が大連市、丹東市、本溪市、日本側が北九州市、舞鶴市、金沢市、韓国側が仁川市、平澤市、光陽市の合計9都市でした。大会前日の22日(木)には歓迎晩餐会が開かれ、翌日からの市内に備えて英気を養うとともに、各都市間がお互いの健闘を誓い合いながら、和やかなムードで進行しました。



翌日23日(金)からの試合は男女の各団体戦及びシングルスが行われ、各都市の代表チームは男女各3人ずつと監督、コーチ等で構成されました。北九州市からも北九州市卓球協会のご協力のもと、会長自らが監督を務め、男女とも精鋭揃いのメンバー構成で大会に臨みました。

さて、気になる大会の結果ですが、北九州市は団体の部では女子が準優勝、男子が3位といずれも表

彰台に登り、シングルスの部では男子が4位と5位（5位～8位は同位）、女子は2名が5位に食い込むなど大健闘の活躍でした。



優勝は団体が男女とも大連市、シングルスも男女とも大連市の選手でした。大連市関係者に聞いたところでは、女子は元日本卓球1部リーグの実業団に所属する選手もいたり、男子も元セミプロの選手がいたり、他都市を圧倒する陣容で勝ち上がり、開催都市としての力の入れようを感じました。

そうしたなか、特に大会関係者の注目を集めたのが、男子の団体戦での奮闘ぶりでした。団体準決勝では惜しくも決勝進出こそ逃したものの、今大会で一度も負けていない大連市チームのしかもエース級の選手に打ち勝ち、3位決定戦では卓球王国中国の本溪市を破り3位に入るなど、大連市の卓球関係者から何度も「北九州市の選手はプロか？」と尋ねられるほど注目を集めていました。



大会終了後の25日（日）に開催された送別晩餐会では、互いのラケットを交換したり、各国・チームの選手同士が肩を抱き合っ酒を酌み交わしながら交流を深めるとともに、北九州市から参加した選手の皆さんからも「次回もぜひ参加したい！」という声をお聞きするなど、スポーツを通じた友好交流の素晴らしさを実感できる意義深い大会でした。



## 『第8回大連日本商品展覧会』が開催されました

中国国際貿易促進委員会大連市分会と大連市人民政府の主催により「第8回大連日本商品展覧会」が2016年9月23日（金）～25日（日）の間、大連世界博覧広場で開催されました。

大連日本商品展覧会は2008年から開催され、多くの日本の地方自治体や日系企業が参加し、地元の食品類や伝統工芸品、生活用品、工業用品、化粧品類など幅広い分野の商品販売促進活動を行う展示販売商談会です。会場には、一般来場者の他に、大連や中国東北部及び中国全土から多くのバイヤーも来場し、出展企業とのマッチング商談会も準備されました。

8回目の開催となる今回は、昨年より30ブースほど多い計212ブースを183の企業や団体が出展しており、開館時間前から来場者が入場待ちの列を作るなど日本商品への関心の高さが伺えました。

開催期間中の総入場者数は昨年度より約14,000人も多い54,200人に及び、大変な盛況ぶりでした。



北九州市からも当事務所及び株式会社イトウ様が合同で3ブース出展し、同社製品の化粧品や水素水製造器具、健康食品、加工牛肉などを展示販売するとともに、北九州～大連便の就航や観光PRを行いました。出展ブースには購入の順番待ちをする行列ができるほどの盛況ぶりで、出展企業様からも「思っていたよりもかなり来場者が多く、商品販売も好調で、良い商談も出来た」という感想を頂きました。



最近では、中国の方が日本で“爆買い”することが従来に比べて沈静化傾向にあります。相変わらず日本の商品・製品には大きな安心感を持っています。特に体に入るものや触れるものなど健康を意識した商品や、安全で高品質の商品には高い関心を示しており、中国人消費者の嗜好や傾向を把握することが今後の商品販売の促進につながるものと考えられます。